



京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies

京都外国語短期大学
Kyoto Junior College of Foreign Languages

持続可能な観光を目指す京都の地で 「関わり」を通して平和構築に尽力



京都外国語大学は、「コミュニケーションエンゲージメント」という独自のアプローチでSDGsに取り組んでいる。国際貢献学部の教授であり、長年京都国際観光大使を務めたジェフ・バーランド氏が「京都×SDGs」を切り口に、観光が持つ可能性や同学部の学びについて語った。

観光の力が
平和と幸せをもたらす

第2次世界大戦後、戦争を二度と起こしてはいけないという思いから大学の歴史は始まりました。建学の精神「PAX MUNDI PER LINGUAS」—言語を通して世界の平和を—には、異なる言語や文化を持つ人と人々が理解を深め合うことへの願いが込められています。その平和構築に向けたアプローチの一つが「観光」です。1999年にUNWTO（国連世界観光機関）は、観光が



ジェフ・バーランド
国際貢献学部
グローバル観光学科 教授

平和をつくと明文化しました。私はそもそも人間の幸せには次の要素が必要であると考えます。それは心身の「健康」と、「コミュニティや自然環境との「関わり」、新しいことを知る「好奇心」です。実は観光には、これらすべてを生み出す力があります。見知らぬ土地で体を動かしながら、現地の人々や文化と触れ合い、新たな発見に出会う。一連のプロセスが人々の幸せを育み、相互理解も促すのです。

ルスタディーズ学科とグローバル観光学科を設けています。コミュニケーションでの協働を通して
培われる問題発見力

SDG16「平和と公正をすべての人に」は、世界中の人々が協力して初めて実現できるものです。本学は創立以来75年にわたり、平和構築に向けた土台づくりに尽力してきました。その一環で2018年に開設したのが国際貢献学部 (Faculty of Global Engagement) です。エンゲージメントには「関わり」という意味があり、私たちはそれを一方が手を差し伸べるのではなく、お互いが対等な立場で同じ目標に向かって協働する関係性だと考えます。そして、人と人が目に見える形でつながることができる手段が観光です。そのため、本学部ではグローバ

2019年、世界約70カ国から各国の観光・文化大臣などが集まった国際会議が開催され、持続可能な観光に向けて「京都モデル」を模範とすることが定められました。同モデルは、観光と文化の力でSDGs達成を目指す京都独自の取り組みです。国際貢献学部には、学生が国内外のコミュニティで現地の人々と協働しながら17のSDGsに挑む「コミュニケーションエンゲージメント」(以下、CEP)というプログラムがあり、京都も実習先に含まれます。観光業をはじめとした各種産業が盛んなこの歴史都市は、SDG8「働きがいも経済成長も」を考えるのにつけてのフィールドです。ほかに、ホテルにおけるゴミ削減の取り組みを通して環境問題に着目したり、旅館の経営者に男性が多い事実からジェンダー平等の問題と向き合ったりすることもあ

都を通して、さまざまな角度からSDGs達成に向けたヒントが浮かび上がってくるはずですが、本学部では、問題発見力・解決力の養成を重視しています。学生たちはコミュニケーションの中で学びを深めるとともに、そこで得た気づきから問題点を言語化し、具体的な解決策も提案していきます。解決策とは、個人で見いだすのではなく、皆と関わり合いながら一緒に考えていく過程で生まれてくるもの。これは、本学が創立以来大切にしてきた姿勢です。語学はそのためのツールであり、言語や文化の異なる他者と協働するうえで欠かせません。そして、外国語を学ぶという行為は、自分自身と向き合う機会になります。新しい価値観やこれまでにない考え方に触れ、自国の文化やアイデン

ティティーを見つめ直すことで、人間的にも大きく成長できるのです。

受信者責任型文化を極めた
京都で学ぶ意義

コミュニケーションのあり方において、「発信者責任型文化」と「受信者責任型文化」という分類があります。前者は発信者が主体となり受信者に必要な情報を与えるのに対し、後者は逆に受信者が発信者の気持ちをくみ取ったうえで行動します。日本は受信者責任型文化の国であり、中でもそれを極めているのが京都です。相手が求めるものを聞かずに察して提供する「おもてなし」は受信力がなせる業であり、京都はそのスキルを学ぶのに最適な場所と言えるでしょう。



近年、観光は三密を避けることのできる場所が好まれやすく、都心部から郊外へと人々の関心は広がっています。そのため、京都の観光も京都「府」として考える必要があります。例えば、UNWTOは世界から選抜した44地域の1つとして、美山町(京

University Information

京都外国語大学・京都外国語短期大学

Kyoto University of Foreign Studies / Kyoto Junior College of Foreign Languages

〒615-8558 京都府京都市右京区西院笠目町6 URL: https://www.kufs.ac.jp/



伝統産業従事者にインタビューし、その思いや経験をフリーペーパーで伝える

国際貢献学部 グローバル観光学科
中村 帆香
プログラム名: CEP京都市内



京都という地で活動したいという思いから「CEP京都市内」を選びました。CEPでは、京都の伝統産業を知るきっかけとなる入り口をつくり、普段京都の伝統産業に関わることのない人、特に若者世代に向けて発信することを目的としたプロジェクト「TaSo」を発足。伝統産業従事者に焦点を当て、ライフストーリーインタビューというその人の人生に変化や影響を与えた経験を聞き出すインタビューを実施しました。私はフリーペーパー

の編集を担当。専門的な知識があるわけではなかったのですが、チラシや雑誌を参考にしたり、仲間からアドバイスをもらったり、試行錯誤を繰り返す毎日でした。時間も限られており大変でしたが、どんどん形になっていく様子を喜びを感じました。今回のプログラムを通して、伝統が持つ奥深さに気づくことができました。これからも仲間や後輩たちと一緒に京都の伝統を支える「人」を発掘し、その魅力を発信していきたいと思っています。



外国人留学生としての視点で日本独自の文化や特徴を知る

国際貢献学部 グローバル観光学科
ジン ユンス
プログラム名: 京都スピリチュアル



実習先である神社で、各神社の基本情報と歴史、特徴についての講義を受け、境内を回りながら建築物に関わる情報や歴史、祭りの話を聞きました。チーム活動では、「Vlogを通じた20代観光客の誘致」をテーマに動画を制作。私は、日本人にはない留学生ならではの視点で感じた神社の魅力を探し出し、効果的に表現することに力をいれて取り組みました。完成動画は、日本語、英語、中国語、韓国語の4カ国語に翻訳してYouTube

で公開しています。チームでの活動を通して、メンバーと協力しながらコミュニケーションを図る方法を学び、自分の役割を理解しながらそれぞれプロジェクトを進めることができました。実習を通じて日本人の文化と歴史について深く知ることができたCEP。映像編集にも興味が生まれたので、今後は新たな目標として、「京都に住む20代外国人留学生ならではの京都」についての映像をつくりたいと考えています。



世界の若者に向けて日本の魅力を発信する動画を制作

国際貢献学部 グローバル観光学科
實田 優心
プログラム名: 京都スピリチュアル



私は100回を超える渡航経験があり、世界各地で日本人の宗教学や独自の文化に関する質問を多く受けてきました。そこから日本文化、特に神道に関する知識を得たいと考えようになり、「京都スピリチュアル」を選択。実習中は、神職の方々から、神道や各神社についての講義を受けました。さらに、神職の職務内容からコロナ禍における祭事まで幅広いテーマでお話を伺うことができ、大変貴重な経験になったと感じます。チームの活動

では「東アジアを中心とする世界の若年層」をターゲットとして、神道や各神社の魅力を発信する動画を制作。その過程でチームワークやリーダーシップが養われ、確かな成長の手応えを感じました。今回のCEPを通して、神道や神社をはじめとする日本文化への理解を大いに深めることができました。卒業後は、これまでのさまざまな経験を生かし、小さい頃からの夢でもある「男性客室乗務員」として、世界の空で活躍したいです。



高校生を対象としてSDGsに関するワークショップを英語で実施

国際貢献学部 グローバルスタディーズ学科
神橋 恵那
プログラム名: Camp Pax Mundi



17の目標があるSDGsのどれか1つに関連する活動をグループで企画し、高校生と英語で交流する「Camp Pax Mundi」。私のグループはSDG4「質の高い教育をみんなに」を選びました。フィールドワークでは、日本の教育の仕組みや変遷についてオンライン交流会を実施。「高校生に楽しんでもらうこと」が一番大切だと考え、高校生が自分たちの英語力を気後れせずにプロ

グラムに参加できるように工夫し、柔軟な対応を心がけました。CEPを通して、自分の意見を発信する力が身に付いたと感じます。さらに、グループリーダーとしての役割やグループを引っ張る方法、責任感も学ぶことができました。今後は、今まで以上にボランティア活動に参加し、英語を使った取り組みにも挑戦することが目標です。さらに、国ごとの文化や習慣の違いを知り、相互理解を育むことができる場を広げていきたいと思っています。



得意とするデジタルツールを駆使して高校生に新しいスキルを伝授

国際貢献学部 グローバルスタディーズ学科
中辻 凌
プログラム名: Camp Pax Mundi



大学入学後、さまざまなイベントの企画・運営に携わってきた経験や高校時代に教師を目指していたことから、「Camp Pax Mundi」を選びました。私のグループはSDG15「陸の豊かさを守ろう」をテーマに、体験型プロジェクトを企画。京北町や美山町を訪れ、現地でガイドの方に森林保全についてのお話を聞いたり、かやぶき屋根の建物を見学したりしました。また、「高校生に楽しく、新しいスキルを身に付けてほしい」という思いから、私が得意と

するデジタルツールを使って、ゲームやクイズを交えながらプレゼンテーションを実施。高校生も飽きずに参加できたのではないかと思います。グループの統率をとることは難しかったですが、メンバー同士で協力して、乗り越えることができました。CEPでは臨機応変に動くことが求められ、柔軟性が身に付いたと感じます。この経験やリーダーシップを生かして、将来はイベントの企画・運営を行う仕事に就きたいです。



京都の伝統的な文化や産業について「人」を通して、広く発信

国際貢献学部 グローバル観光学科
梶谷 圭吾
プログラム名: CEP京都市内



世界的に有名な観光地に位置する本学で学んでいるにもかかわらず、京都の伝統的な文化や産業についての知識が乏しかったため、それらを学ぶことができる「CEP京都市内」を選びました。CEPでは、京都で伝統文化や伝統産業を担っている職人に焦点を当てた動画とフリーペーパーを制作。職人という

躍されている職人さんの動画撮影を担当。多くのメディアに出演された経験を持つ職人さんからアドバイスをもらい、無事完成させることができました。これまでは、自主的に行動することが苦手だった私。しかし、今回のCEPで自分たちの考えを形にできたことで、自主的に行動することの大切さや楽しさを改めて実感しました。今後も、職人という「人」に焦点を当て、京都の伝統に興味を持ってもらうための活動に取り組んでいきます。

利用するアクセサリブランドを創業したり、大丸京都店と連携して食品ロス削減に取り組んだり、自ら主体となって多様な活動に励んでいます。学内でも、パーパレス化・節電の推進やSDGsに資する種々の研究活動を実施してきました。各教員は自身が関わる研究会やイベントに有志の学生を同行させ、そこでプレゼンテーションの場を設けるなど、より多くの成長機会を提供できるように努めています。今後は京都外国語大学が賛助加盟員になっているUNWTOにおいて、次世代の観光リーダー育成に向けたワークショップを、本学の学生主体で企画・開催する計画も進行しています。

これからの未来を担う学生たちには、人類が幸せになるために、自分がどのように貢献できるかを常に考えてほしいと思います。フィールドに関係なく、本学で身に付けた「関わり方」を長い人生の中で実践し、他者とエンゲージメントを築く。そうした一人ひとりの行動の積み重ねが、SDGs達成につながっていくはずですよ。

一人ひとりが身に付けた「関わり方」を人生の中で実践

本学の学生たちは、京都・西陣地域の産業廃棄物を創造的に再

都府南丹市)をベスト・ツーリズム・ビレッジに認定しています。伝統的建造物であるかやぶき屋根の家が点在し、独自の文化と豊かな自然を享受できる美山町。こうした郊外の魅力ある場所に観光客が訪れ、京都市に一極集中せず、観光業と地域住民の生活とが共存できる持続可能なモデルが今後は求められています。

また、世界的な傾向として国内旅行が増えています。京都市は柔軟性のあるレジリエンスツーリズムを掲げ、インバウンドだけに頼らない観光業を目指しています。県外の人はもちろんですが、京都人でさえも清水寺を訪れたことがなかったり、祇園祭に行ったことがないというケースは珍しくありません。観光を通して表面的な知識ではなく、その地域が持つ歴史やルーツを私たち自身もつと深く学んでいくべきだと考えます。